

2022年11月6日(日) 狭山キリストの教会 礼拝説教

テキスト：ヨブ記 34章

タイトル：—エリフの弁論②—「冷たい正統主義」

わたしの言葉を聞け！(1~4節)

お前は神を_____にするのか！(5~9節)

5 ヨブはこう言っている。「わたしは正しい。だが神は、この主張を退けられる。6 わたしは正しいのに、うそつきとされ罪もないのに、矢を射かけられて傷ついた。」(新共同訳)

7 ヨブのような男がいるだろうか。水に代えて嘔りて喉をうるおし 8 悪を行う者にくみし 神に逆らう者と共に歩む。(新共同訳)

【エリフの神学】

1. 神は_____お方(10~13節)

ヨブ記 34:10 神が悪を行うなど、全能者が不正をするなど、絶対にあり得ない。11 神は、人の行いに応じて報いをし、それぞれをその道にしたがって取り扱われる。12 神は決して悪を行わない。全能者はさばきを曲げない。

2. 神こそが_____だ！(10~13節)

13 ただ神だけが、地上を支配する権威を持ち、正義をもって全世界を治める。(リビングバイブル)

3. 神は_____なお方(16~20節)

ヨブ記 34:17 いったい、公正を憎む者が、治めることができるだろうか。正しく力ある方を不義に定めることができるだろうか。18 人が王に向かって「よこしまな者」と言い、高貴な人に向かって「悪者」と言えるだろうか。19 この方は、首長たちをえこひいきせず、上流の人を貧しい民より重んじることはない。彼らはみな、神の御手のわざだからだ。

4. 神はすべてを_____のお方(21~22節)

ヨブ記 34:21 神の御目が人の道の上にあり、その歩みのすべてを神が見ておられるからだ。22 不法を行う者どもが身を隠せる闇はなく、暗黒もない。

神はすべての悪事を見逃さない。・・・不敬の輩は闇(24:13-17)には神の目が届かないと考える(22:13-14)。(並木浩一著「ヨブ記注解」p. 362-363)

- 詩篇 139:11, 12

5. 神は正しく_____お方(23~30節)

神は、裁判を必要としない(23節)。取り調べの必要もない(24節)。とつうのも神は全てを、御存知だからだ。長い審理にかける必要もなく、迅速に判決を下し、悪者どもを夜の夜中に突如滅ぼされるのである(25節)。神は悪者の悪を明らかにし、これを隠されず、ご自身が正義であることを誰の目にも明らかにされる(26節)。弱者の叫びを聞き洩らさず、苦しむ者を見過ごされることはない(28節)。(パスターまこと)

29 神が黙っておられるのに罪に定めうる者があるだろうか。神が顔を背けられるのに目を注ぐ者があるだろうか 国に対してであれ人間に対してであれ。

30 神は、神を無視する者が王となり 民を震にかけることがないように

される。(新共同訳)

結論：

だからヨブよ、神の前に_____！(31~35節)

31 なぜ、人は神に、『私たちは罪を犯しましたが、もういたしません』と言わないのだろう。32 あるいは、『自分がどんな悪いことをしたのかわかりません。教えていただければ、すぐに改めます』と言わないのだろう。(リビングバイブル)

ヨブは_____よ！(36~37節)

36 悪人のような答え方をヨブはする。彼を徹底的に試すべきだ。37 まことに彼は過ちに加えて罪を犯し わたしたちに疑惑の念を起こさせ 神に向かってまくしたてている。(新共同訳)

【34章からの適用(レッスン)】：

エリフが語る「神学」には同意できる(正しい)。だが、エリフがヨブを責める、その前提が間違っている。エリフは、ヨブを罪有りだと決めつけて、ヨブが語っていないことを、ヨブが言ったと決めつける。だから議論が噛み合わない。正しい神学、つまり言っていることは正しいのだが、誤った適用をするならば、それは、いわれのない非難・批判となってしまう。

「目の中の_____」：マタイ 7:1-5

「_____のある者は聞きなさい」

ヨブの側に非はなかったか？と言われれば、、確かにヨブは苦しみのあまり、多くを語り過ぎたのかもしれない。結果、エリフの誤解を招いたのかもしれない

ヨブ記 16:9-15 :

エリフは、これらの言葉に我慢できなかった。しかし、それは、ヨブの苦しみの中から出た神への SOS であった。その証拠に、その後で、ヨブは正しく裁かれる神に向かって叫んでいる。

ヨブ記 16:19-21

これは神に対する基本的な信頼関係の中で語られた言葉。

不平・不満・・・それは自らの苦しみ・痛みの裏返しである。しかし、それと神への敵対心とは違う。言葉(人のことば)と、その背後にあるその人の気持ちを見分ける努力が必要だろう。

エリフが言っていることは正しい。正しい神学だ。しかし、ヨブの気持ちに寄り添ってはいない。冷たい正統主義、杓子定規な考え方。それが人を裁き、人を苦しめる。